

## 「解答」・「解答例」

選抜区分 学校推薦型選抜	2023年度（選抜区分：学校推薦型選抜） 文学部 比較文化学科（科目名：小論文）
問題 I	
問 1 文法は教えるのが容易で、ワークシートや、はい・いいえ式のテストに凝縮することができるのにたいし、会話の技術は主観的であり、乱雑で明確ではない。用意を整え、開始するのに長い時間を要し、次の授業のベルが鳴ったからというだけで止めることができないため。（122字）	
問 2 次から次へと質問を発しながら、いつ終わるともしれない会話の流れを作り出すことができ、筆者に会話をしているということさえ忘れさせるほどであるため。また自分の意見や話も織り交ぜて会話にすっかり参加することができるため。（107字）	
問 3 文法の知識は役に立つが、それだけでは十分な助けとはならない。会話の切り出し方や話題を変える表現、続けて行う質問や開放型の問いかけ、成句表現や英語においては相手の話を遮る能力が必要となる。また、言語によらない技としては、対話者が西洋出身の人間であれば、よりまっすぐ相手の目を見て、話を聞いているという証拠にうなずき、また素早い応答を示すことも重要である。（176字）	
問 4 「出題の意図」を参照のこと。	

## 問題Ⅱ

### 問1

サムライ社会では、「笑い」は人間関係を損なうもの、共同体を破壊するものと捉えられる。なぜなら、サムライ社会は、身分・格式にうるさいタテ社会であり、「笑い」は「攻撃」として受け取られるためだ。したがって、日常生活から追放される傾向にあり、笑ってよい場とよくない場との区分けがある。一方、商人社会では、「笑い」は人と人をつなぐ機能を果たすものと捉えられる。なぜなら、商人社会は、経済的関係を身分の別なく誰とでも横に広げて繋がっていきこうとするヨコ社会であり、公的な活動である商談においても「笑い」は効果的に用いられる。したがって、笑いの場の区分け意識は稀薄であり、「笑い」は「協調」として受け取られる。

(299字)

### 問2

「出題の意図」を参照のこと。